

KTK
NO.114

あらぐさ通信

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

編集 あらぐさ後援会
編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

「みんなでやるのが楽しい！」デイ2 エアロビ活動

デイ2では週に一回、エアロビの活動を行っています。活動では、利用者さんが選んだ音楽に合わせて楽しくダンスをします。活動の始めには、利用者さん同士や職員とペアになり、ストレッチやマッサージをします。体がほぐれると、自然と笑顔があらわれてくる姿がとても素敵です。

これからも心地良い距離感を保ったふれあいを大切に、楽しく運動をしていきたいです。(岡田)



新年によせて

昨年も、地域での行事や販売の取り組み等でお世話になり、ありがとうございました。

コロナ禍により、後援会行事の「あらぐさひろば」は開催見送りでしたが、また集えることを心待ちにしております。

今年は、相談支援センターみちくさが10周年を迎えます。この間、障害のある人の人生をともに考える中で、さまざまな出会いや別れがありました。これからも、地域で豊かに暮らし続けるために必要なことを明らかにし、一つ一つの課題に向き合っていきたいと思っております。

今年もどうぞよろしくお願い致します。

相談支援センターみちくさ 中山 恵美子

地域で
くらす

やさしく接してほしいヤスヒロさん

車で外出が大好き！

ヤスヒロさんは42歳。あらぐさでは、畑仕事や大阪保育福祉専門学校の掃除が大好きでしっかりと活動しています。午後からの時間には働いているグループで、友達とコーヒーミルを使ってコーヒータイムを楽しんでいます。

おいたち

昭和55年8月20日、長岡京市の岡部産婦人科で予定日より早く生まれました。2800gの赤ちゃんでした。新生児検診では特に問題はなく、1歳を過ぎると「ママ、バイバイ、タカタカ・・・」と言葉が出ていました。2歳の時、急に言葉が出なくなり、保健センターや大学病院などに行き、相談をしました。集団の中での保育を勧められ、ポニーの学校と、就学前まで新田保育所に通いました。

就学は地域の長岡第六小学校へ

地域の小学校に入学し、5年生からは向日が丘養護学校に転校しました。4クラスの中の一つ、よく動き回る5人の男子ばかりの『そうグループ』と呼ばれていたクラスに入りました。

向日が丘養護学校でのこと

みんなで西山に出かける時間、合同の『からだ』の時間、個別の『療育学習』の時間がありました。くぎ打ちやのこぎりを使っての木工や縫物など、手先が器用なのできちんとした作品に仕上げていました。体育祭では、高い跳び箱からジャンプをしたり、担任の肩車で演技をしたりしました。

向日が丘に転校後は、スクールバスでの通学が始まりました。ヤスヒロさんは、人が大勢いるバス内は苦手でした。そのこともあり、担任と自転車の練習をして、乗れるようになりました。

神戸への修学旅行では、新幹線に乗りました。大勢の乗客と一緒に空間が苦手なので『てっちゃん先生』と特別室に乗せてもらいました。現地では、タクシーで移動し楽しむことができました。

体育館での行事の時には、担任と自転車で大原野に出かけたり、田んぼの畦道でたんぽぽを摘んだりして過ごすこともありました。



高等部で、寄宿舎入舎を体験しました。散髪ボランティアに散髪してもらうことができ、これまで頼める所がなく、親がしていたので嬉しかったです。でも体験入舎は、夜眠れず数日で家に帰りました。

担任の優しい関わりもあり、花壇づくりや縫物など楽しく活動ができました。「ヤスヒロさんは2回で覚える」と褒めてもらっていました。

夏休みや冬休みは、障がい児学童保育『わっしょいクラブ』に入りました。いろいろな活動があり、落ち着いて参加していました。



あらぐさでの活動

当時は無認可で『太鼓山』の民家での活動でした。最近のあらぐさでの様子は落ち着いてきて、「能ある鷹は爪を隠す」などさらっと言葉を発しています。大阪保育福祉専門学校の掃除は大好きで、坂道のゴミの片付けや終了後の挨拶もきちんとできています。帰りのドライブを楽しみ、帰り道で要求しています。カタログ販売は好きな仕事で、ホッチキス止め、カタログの届け、注文品の届け、お金の受け取り、お釣りの受け渡しなどを行っています。パズルや迷路も好きです。最近はスーパーに出かけ、レジでお釣りをもらえるようになりました。あらぐさではヤスヒロさんにとって安心できる職員がたくさん増えました。送迎車に安心できる職員が乗ってくると喜び、家に帰ると「車で〇〇さんといっしょだった」とよく話します。初めの頃は単語での言葉が、今では単語と単語をつなげて話せるようになりました。その日の連絡帳の内容と本人が話すことが合っていて、家族との会話が楽しくなっています。

家でのからし

お父さんは退職後、あらぐさから帰ると夕方2時間、休日は朝夕と一緒に散歩しています。暑い日も冷たい風の吹く日も欠かさず散歩をすると落ち着い

ています。行きつけの喫茶店があり、散歩終わりにケーキセットと別にケーキを頼むそうです。店の人が、食べ過ぎだと思う時は「このケーキは別のお客さん用です」とやんわり断ってくれているそうです。行きつけのお店は3軒あります。公民館に入って新聞を手にして読むこともあります。

ヤスヒロさんは、小さい頃からマンホール蓋が好きで持ち帰るといった困った行動がありました。今では世の中も変わり、マンホール蓋に興味を持つ人も増え、大山崎町では蓋の写真を配るイベントがありました。お父さんは、行列に並び、写真を得たそうです。あらぐさで写真をラミネート加工してもらい、満足しています。さらにお父さんは、ヤスヒロさんのためにミニチュアの蓋を求めて出かけています。

家ではまた別の姿があります。お母さんに「お茶！」と言うそうです。頼めば洗濯物を運んだり畳んだりできます。文字を書くことはできませんが、読むことができるので、給食の献立表を見て心待ちにしています。何でも好きで、食べられない物はありません。以前は家族と食事ができませんでしたが、最近では一緒に食べられます。TVも家族と一緒に見ることができ、悲しい話は泣き、楽しい場面は喜んでいます。

昨年4月夜、自宅の2階から飛び降りて右足のかかとを骨折しました。あちこちの病院を回り、ようやく京都府立医大付属病院で手術を受けました。親だけでは対応できず、あらぐさの職員に助けいただきました。全身麻酔で4時間の手術でした。お父さんの付添いが許され、2泊3日の入院で帰宅しました。退院後はすぐに、車椅子であらぐさに通所を始めました。完治するまでに1年かかりました。その間、ギプスをしていたので、あらぐさでシャワー浴をしてもらいました。

退院する日、ヤスヒロさんは執刀医にお礼が言いたい気持ちがあったようですが、急いで家に帰りました。その後、ずっと「お礼を言いたい」と言ってきました。文字は読めますがまだ書けないので、あらぐさの職員と一緒に手紙を書きました。担当医師は、ヤスヒロさんの手紙を自宅や病院の部屋に飾って大切にされているそうです。



ヤスヒロさん理解の必要性

時折、何か辛い怖い思いをしたことがあれば、家の陶器のトイレを持ち上げて壊すなどびっくりする様なことがありました。ヤスヒロさんは、人からの言葉かけや行為、生理的に辛い騒音などが原因で、怖く感じ易く、神経が傷つき、強い不安感や緊張感に苦しみます。ヤスヒロさんの感じ方を理解し、関わり方や生活環境の在り方への丁寧な配慮が必要です。

お父さんお母さんの願い

お父さんは、JR大阪本社勤務の時には帰宅が遅く、ヤスヒロさんの世話はお母さんが中心で、大変な時期がありました。現在、月1回いろいろのショートステイが気に入り、「いえ、行く」と話しています。安心して暮らせる環境が整えば、ケアホームに入所できればと思います。ガイドヘルプも月1回の利用ですが、知らない所にも行けるようになったので、時間を増やしたいです。安心して利用できるよう、理解ある福祉タクシーが増えるといいなと思っています。（聞き取り・文：前田・森垣・真殿）



各グループからの報告



野菜づくり

(Aグループ)

10月に入り、Aグループでは冬の野菜作りに取り組んでいます。外での活動は、自然の土や水の感触を味わうことができる良い機会です。今年はじゃがいも、にんにく、大根を作り始めています。じゃがいもはBグループと合同で取り組み、大根もAグループで育てた苗をCグループにおすそ分けをしました。お互いを意識しながら一緒に活動をされる様子があり、グループの枠を超えた良い機会となっています。暖かい日差しを感じながらの活動は、心地よさがあり、みんなの表情が和らぎます。(森下)



藍染めマスクづくり

(Bグループ)

Bグループの染め活動では、冬カタログに向けてマスクの藍染めに取り組んでいます。

職員と一緒に好きな歌を歌いながら、リズムに合わせてトントンと叩いて染色を楽しむ利用者さんや、得意の水切り器をグルグル回し、「できたよ!」と職員を見て嬉しそうに拍手される利用者さん。皆さんそれぞれの得意な工程があり、楽しみながらいきいきと活動に取り組まれています。染色したマスクは、袋に入れてラッピングします。好きなシールを貼り付けて可愛くデコレーションし、出来上がりです。1枚1枚、みんなの気持ちが詰まったマスクの完成です。(岩佐)





レインボーバッグ (Cグループ)

みんなで、「どの色が良いだろう?」「どのような柄が良
いだろう?」と悩みながら、今のレインボーバッグのデザ
インが出来上がりました。そのレインボーバッグは、あら
ぐさの冬カタログにも掲載されています。カタログでは、
“きみどり”と“ピンク”の2色のみの限定販売でしたが、
他にもレインボーの名の通り、“赤色”から“紫色”まで様々
な色を取り揃えています♪サイズ感もちょっとした買い物
や、散歩にはピッタリです。ご注文お待ちしております。

(芦田)



ご注文はこちらまで 電話075-953-9212

冬季限定! ウィークエンドシトロンケーキ (ワークセンター)

今回ご紹介するのは、「ウィークエンドシトロンケーキ」です。たっぷり
入ったレモンピール、そして、しっとり焼き上げたケーキの表面はレモン
アイシングでコーティングしており、とても美味しいですよ。

ウィークエンドシトロンとは、“週末に大切な人と食べるケーキ”という
意味があります。平日は仕事や学校でお忙しいこととは思いますが、週末には
ゆっくりケーキを食べて楽しみませんか?

3月末頃まで、ご注文を受け付けておりますので、ぜひご賞味下さい! (三浦)



ハッピーハロウィン! (ケアホームいろいろ)

ケアホームいろいろでは棟ごとにハロウィンパーティーを行いました。
事前に「ポテト・チョコパイが食べたい!」とリクエストをされたり、
飾り用にぬりえをされる方もおられ、期待たっぷりの様子。

当日は、カボチャ・黒猫などのカチューシャ、魔女の帽子等
で仮装をしました。みんなでケーキやお菓子を食べたおいしい
ジュースも飲みました。記念撮影もして、おいしい楽しい
笑顔いっぱいのパーティーでした。(松本)



奥田岳人さん いつまでも、心に

岳人さんを偲んで

1986年7月発行 あらぐさ通信No.1掲載 文：奥田一子（抜粋）

「息子の進路について悩み始めたのは高等部3年でした。身障手帳1種1級で重度重複を持ち、生活のすべてに介助が必要で、在宅か遠くの施設かと迷いました。」「何とかこの乙訓の地域で皆さんに助けをいただきながら生きていきたい、そして皆さんに障害のことをわかっていただきたいとの一心でした。そしてこの3月『あらぐさ』がオープン。私たち親子は今幸せです。障害を持つ多くのお母さん方に支えられて毎日通っています。本当に多くの人達に支えられて過ごしています。」



1994年9月発行 あらぐさ通信No.27掲載

「一泊旅行に出発からワクワク、ドキドキ。」「僕、奥田岳人、27才。海って大好き！旅行大好き！あらぐさ大好き！」
(4年ぶりのあらぐさ修楽旅行・越前海岸の海にて)

2010年5月発行 あらぐさ通信No.75掲載 文：奥田保（抜粋）

「毎日生き生きしています。(親は) だんだん年を取り家での介護が出来なくなってきました。岳人にとって安心して過ごせる場所、そこで寝起きしながら、大好きな「あらぐさ」へ毎日通える、そういう環境を、そういうホームが出来れば」
(2012年、ケアホームいろいろりが完成しました。)



36年来の友人とお出かけ

障害福祉センターあらかさの奥田岳人さん(50才)が、昨年9月25日(土)お亡くなりになりました。8月、コロナ感染により入院。新たな症状を併発され、46日間の闘病でした。あひるの生活36年、あらゆる通信には岳人さんの笑顔、意志をこめた足先目線、「家族の思いが、いっしょに綴られていました。」



一年目・回収した古紙を引く。



完成したホームの前で

岳人さんといえば、笑顔です。その笑顔でみんなが笑顔になり元気にしてくれた岳人さん。
Aグループのリーダーであり、友たちにも職員たちにも気をかけてくれました。いつもあなたがかたい目線を送られていました。
しんどそうにしている人がいると、心配そうな顔になり、元気そうな声が聞こえると一緒になって笑ってくれました。Aグループの新任職員にはやさしい目線を送り、お客さんには、一番に声を出して自己紹介の握手をしてくれました。
お父さん、お母さんに大切に育てられ、岳人さんの思いがたくさん詰まった笑顔は、いつまでもみんなの心の中に残っています。これからも、私たちの支えです。
(Aグループ職員一回)

きょうされん全国大会 in 東北 岩手に参加して

きょうされん全国大会が岩手県で行われました。3年ぶりに対面での全国大会となり、約1400人の障害当事者や関係者が集まりました。開催地の陸前高田市は、震災から11年が経った今も被災の悲しみを抱えながら、障害があってもなくても、誰もが住みやすい街づくりを進めておられました。全国に同じ志を持った人達が顔を合わせて交流ができ、思いを確認しあうことができるとても有意義な大会でした。

(きょうされん担当 鞍貫)



2022年9月30日、メイン会場の夢アリーナたかたにて、オープニングの様様です。



きょうされん 第46次国会請願署名・募金への

ご協力をお願い

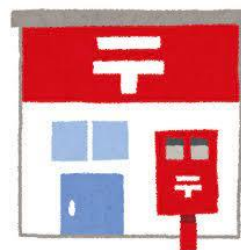
「あたりまえに働き えらべる暮らしを ～障害者権利条約を地域のすみずみに～」というスローガンはあらぐさの理念とも重なります。全ての人の命と権利が大切にされる社会を目指すため、署名へのご協力をお願いします。署名用紙と返信用封筒を同封していますので、ご活用ください。

後援会費の入会・継続ありがとうございます 2022年8月11日～11月30日 敬称略 順不同

シャーロン美容室 青嶋芳文 赤城博子 芦田空 阿波谷陽子 粟野賢 池田廣子 池田芳子 井古テル子
石野洋子 石橋清子 石原洋子 伊丹路恵 伊藤勝久 伊藤卓次 今井三郎 今井正 今井千代子 今井雄次
今西さよ子 上田和美 浦さち子 江川哲 大江文子 大橋生人 小川貴士 乙訓教職員組合 小野留美子
門野陽子 木村篤哉 金原道雄 久保節子 窪島敏子 倉橋克之 小池良一 小坂文夫 後藤真由美 小松仁美
近藤健二 西古永吉 四方政則 庄田馨 新免富美子 高木夏季 高橋光子 田口芽生 武山彩子 渡辺裕子
田尻司法書士事務所司法書士田尻世津子 多田久美子 立山純治 田中洋子 谷早苗 谷口奈緒子 谷口雄一
丹野かほる 千葉善清 株式会社社工務店代表取締役辻正志 時田麻里 富永洋子 内藤時子 中路克介
中田あづさ 中谷ちよみ 中西郁子 中村雄策 仲本幸代 中本式子 夏原典子 野崎清子 松本正義
株式会社ハウジングステーション代表取締役山下吉昭 長谷川長昭 原木とし子 ぱんだ企画 三崎志保
ビューティサロンナティ岩藤由美子 平方スミ子 前川明雄 松田侑子 松田恵美子 松山雅子 真殿尊子
丸岡正子 丸岡勇毅 丸山彰子 三浦朱葉 三木孝子 南ゆかり 村上宏 村上すみ子 森垣美知子 森上郷
森下純平 森下洋子 八木千代子 安田弘 安松美佐子 山崎諭 山田朱実 山田陽子 山中繁 山中章二
山根信子 郵政ユニオン向日町支部上田秀世 吉田治子 吉田美津恵 匿名12名

後援会への入会・募金のお願い

あらぐさ後援会の活動は、皆様からの会費や募金によって支えられています。継続の会費納入がまだの方がおられましたら、同封している振込用紙をお使いいただき、入金をよろしく申し上げます。



第3回 コロナに負けるな!

~みんなおいでよ

アートな

あらぐさ「リモート」ひろば

今回のひろばでは、会員の皆さんやあらぐさ利用者、関係者によるアート作品の展示をメインにした企画を準備していました。

そこで、3回目となる「リモート」ひろばでは、通信の付録を利用して、読者の皆さんからアート作品を募り、誌面やホームページで紹介して交流を図れたらと思っています。

初めての試みですが、今号の付録ハガキ裏面にお描きいただくのもよし、収まらない立体物や写真などは、まずはメールに添付して送って頂けたらと思います。

また、恒例の福引きエントリーも合わせて実施しますので、付録のハガキ宛名面に必要事項を明記の上、ご希望の賞品に丸を付けて、ご応募ください。沢山の作品が寄せられる事を願っています。ふるってご参加ください。(事務局・松村)

7つの部門で募集します

写真

つづちき
ポエム

陶芸
諸工芸



イラスト
絵画

ホームページ
お問い合わせ

書道

川柳
俳句



メールは、nagasaki@aragusa-fukushi.jp までお送り下さい。

作品の解説、コメントなどもお書き頂ければ、合わせて掲載いたします。

1992年6月5日 第3種郵便物承認 (毎月1回25日発行) 2023年1月27日発行
KTK増刊通巻第5332号 発行所 京都障害者団体定期刊行物協会
〒602-8144 京都市上京区丸太町通黒門東入藁屋町 536-1 元待賢小学校1階
京都医療病院内 発行人 高谷修 頒価50円 (購読料は会費に含まれています)

KTK

あらぐさ通信